

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

1月中旬、松本市東  
昌寺で開催した、NP  
O信州地域社会フォー  
ラムが企画した「私が  
松本市長選に立候補す  
るわけ・臥雲義尚」の

学習会に参加した。講  
師は、3月に松本市長  
選に立候補を予定して  
いる話題の人だ。NP  
Oが政治活動、と首を  
傾げると思うが、信州  
地域フォーラムでは、  
定款で目的を「地域社  
会のさまざまな課題の  
研究に取り組  
む」として、  
活動の種類で  
「まちづくり  
の推進」などをあげて  
おり、その一環として  
開催したのが、今回の  
学習会だ。

経て、報道局記者・解  
説委員に。今回退職し  
てのチャレンジだ。報  
道を通じて見聞した知  
識の話は興味深かつ  
た。50代で自分自身の  
やるべき事を真剣に見  
つめ直し、自分に与え  
られた天命が「地域の  
域システムを考え直す  
べき」との発言に納得  
する現実が多い事も事  
実だ。とかく行政組織  
の縦割り意識に、閉塞  
感を感じた人は多い。  
だが、それを真正面か  
ら取り組む人材は少な  
い。大阪での橋下徹前  
市長らの行政改革の困  
難さは、多くの情報か  
ら読み取れた。固定  
観念にとらわれず新し  
い事にチャレンジしな  
がら、スピード感を  
持って、変化を恐れず  
に変えるべき事は大胆  
に変えたいとの熱意

に、心打たれた。  
今回の勉強会で、感  
心したことがある。講  
師のフット術だ。出席  
者の多くの発言を、書  
き込むスピード。記者  
経験者なら当たり前と  
思うかもしれないが、  
まず他人の発言をよく  
聞き、記録と  
して残す。こ  
の当たり前が  
できないこと  
が多い。他人の発言を  
遮って、発言を始める  
経験をした心当たりの  
ある人は、多いはずだ。  
相手が伝えようとした  
想いを中途半端で理解  
してしまい、発言して  
しまふのだが。発言す  
る側にすれば、不快に

思ってしまう。と諭し  
てくれた友人の言葉を  
懐かしく思い出す。  
選挙は、とかく勝ち  
負けにこだわるが、候  
補者の想いを知る良い  
機会でもある。地域づ  
くりの想いを寄せる多  
くの考えをこれからも  
聴いてみたいと望んで  
いる。  
(NPO法人信州地  
域社会フォーラム理  
事・白馬村森上)

## 地域づくりに真剣に向き合っている人の話を聞いて、地域課題について考えてみませんか



ふる里を熱く語る人の話は、  
集まった人の心も温かくさせる